

長岡地区納税貯蓄組合連合会長賞 優秀

中学生と税金と買い物帰り

長岡市立中之島中学校

三年 内藤 瑞穂

「消費税なんて何であるんだか」

財布の中をのぞき込んでため息を吐いた。

消費税がなければ二本買えるペンが八パーセントのせいで一本しか買えない。僕は今、心底税金をうらんでいる。掌の上に整列した一円玉がちよっとうらめしい。

お店のガラス戸に貼ってあるポスターが目についた。消費税が十パーセントになるだとか、正直冗談じゃないや。軽減税率とか言われても、仕組みが複雑でよく分からない。

僕は中学生だから払う税金は消費税くらいのもんだけど、大人になったら大変だろう。我が家や田畑は固定資産税、祖父の煙草にたばこ税、お給料からは所得税を引かれるらしい。

それでも国にはとんでもない借金がある。二十五兆円も毎年どこが貸してくれるのか大いに疑問だけど、そんなに借金をして返すのは将来の大人である僕らなんだからもう少し出費を抑えてほしいのが本当のところだ。

今、政治を回している偉い大人は、子供の頃に消費税をうらめしく思ったりしたことがないんだろうか。将来消費税が八十パーセントとかになったらどうしよう。帰り道の電車の中でぼ

おっとしながら考えた。

消費税が八パーセントでも五万円の僕のギターは五万四千円になるのに、八十パーセントになったら九万円までハネ上がる。そんなことになったら、税金のせいで首が回らなくなる人が出るのじゃないかしら。

多分、杞憂にすぎないだろうけど、この調子で消費税が上がれば続けたら…、と思うと心配になってくる。

僕の通っている中学校も図書館もそこまでの道路も税金のおかげで回っているのは分かる。税金がなければこの日本という国は正常に機能しなくなる。誰かが税金を払わなければいけないし、それは公平な負担でなくちゃならない。

それは分かっているけれど、いまひとつ税金が僕らのまわりで見えにくいせいなのか、損をしているような気分になってしまふ。

やっぱりペンは二本欲しかった。

国を回すためにはそれなりのお金が必要なのは僕にも分かる。最近は日本の周りの国々も騒がしいし、生活の形が大きく変わっているのも実感しているから。

駅前の政党ポスターを見ながら考えた。

高齢者や生まれてくる子供たちのためにお金を使うのも大事だし、僕ら中学生は税金に守られて生活している。

僕が五年後、大人になるころには、税金があつてこそその社会で損をしているわけじゃないんだよ、と子供たちに胸を張って言えるようになっていたい。まだ僕はそんなに立派な人間ではないから。

手はじめに図書館で税金の使い道を詳しく調べてこよう。西日で熱いアスファルトの道路を大股に歩き出した。